

2026 年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）活動報告書

1. 派遣期間

2026 年 8 月 9 日～2026 年 9 月 13 日（36 日間）

2. 派遣プログラム

2026 年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）のもと、当センター主催の海外フィールドスタディ S「バイオエコノミーを先導するグローバルリーダー育成プログラム」（通称：SSSV プログラム）を実施しました。

本プログラムには、大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻より博士前期課程の学生 20 名が参加しました。

参加学生の内訳

- 藤山研究室：5 名
- 本田研究室：4 名
- 原田研究室：6 名
- 紀ノ岡研究室：1 名
- 大政研究室：2 名
- 内山研究室：2 名

3. 活動概要

【8 月 10 日】マヒドン大学サラヤキャンパスでのオリエンテーション・文化体験

マヒドン大学サラヤキャンパスの Thai House において、本学 ASEAN 拠点の教員とマヒドン大学国際オフィスによるオリエンテーションに参加しました。オリエンテーションではタイ語のレッスンを受講し、現地での研究・生活に必要な基本的な言語や文化について学びました。

午後には、タイの民族衣装の試着やタイ料理の実習を体験しました。



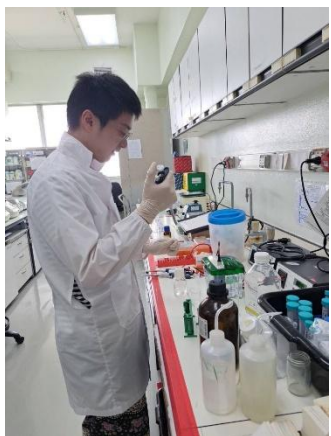


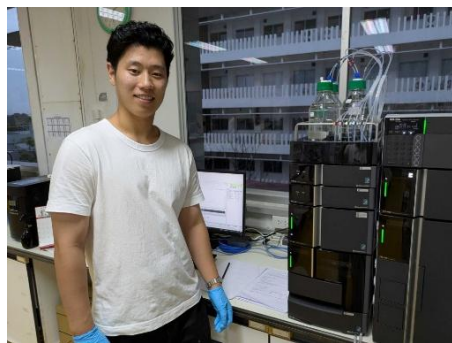
【8月13日～9月8日】各大学での研究活動

参加学生 20 名が以下の 4 大学へ分かれて配属され、各大学の研究室において研究活動を行いました。

- マヒドン大学：5 名
- チュラロンコン大学：6 名
- カセサート大学：5 名
- モンクット王工科大学トンブリ校：4 名

配属先の大学の研究者や学生との交流を図りながら、それぞれの専門分野に関連する研究活動に取り組みました。海外の研究環境に身を置くことで、研究手法や研究に対する考え方の違いを学ぶとともに、国際的な研究交流の重要性について理解を深めました。





【8月13日～9月8日】バンコクでの文化活動

現地の文化や歴史、生活習慣に触れることで、タイに対する理解を深めるとともに、異文化への適応力や国際的な視野を養いました。



【9月9日】企業・研究機関の訪問

9月9日には、タイにおけるバイオエコノミーや科学技術分野の取り組みについて理解を深めることを目的として、日系企業および研究機関を訪問しました。

まず、Ajinomoto Co., (Thailand) Ayutthaya Factory を見学し、食品・バイオ関連産業における生産現場や技術について学びました。



続いて、タイ国立科学技術開発庁(NSTDA)の BIOTEC を訪問し、BIOTEC・バイオマスの統合的資源化研究・生体触媒技術研究の概要の説明を受け、研究現場の見学をしました。



また、Suntory Beverage & Food(Thailand)株式会社を訪問し、飲料・食品分野における事業や研究開発について学びました。さらに現地で活躍する日本人研究者から講演を聴講し、海外で研究活動を行う意義やキャリアについて考える機会となりました。



【9月10日】大阪大学・マヒドン大学ジョイントシンポジウムへの参加

マヒドン大学理学部において開催された「大阪大学大学院生物工学専攻とマヒドン大学のジョイントシンポジウム」へ参加しました。

本シンポジウムで、両大学の研究者による研究発表や交流が行われ、最先端の研究内容に触れるとともに、国際的な研究交流の重要性について学びました。



【9月11日】研究成果発表会

マヒドン大学理学部において開催された研究成果発表会に参加し、各学生が派遣期間中に取組んだ研究活動について発表をしました。

研究成果を英語で発表し、現地の研究者や学生からの質問に対応することで、研究内容を発言する力やコミュニケーション能力を養う機会となりました。

